風流東大左

左

へ13
673

遠へ3
門
帙 673
巻

風流東大全

第一

月縁

足労い歌と味方して引き別れ女の中
婆々の境ゑりもない袖煙り仏様
世物紙まで足りと足が不見利
ちひさい姫の様かきてぐく女の歌さ

明治三六年
九月十一日
購求

第二　紀の伊小三郎みつ猫のあれが兄弟の中

離縁を形よい娘が男へ乃　頻面

女の力芋根深くさのひ欲討の後之

ゑ事成亨さい氣の果る病人は伽

第三　八組ぐ湯郷かくつて三藤斬の首徳

三くゝ安近右あつも不孫な兄弟の討面

主代の刀きれ敢ものよい主人乃兵徳

ゑいゆの三分別悔て返ゑ懺悔の海

一　兄弟い敵と味方丑ゝ別ゝ女夫の中

巻山前ゝ崩ゝれゝも色変ぜば。麋鹿た右ゝ鳥ゝ

瞬うぶゝて後利害を制ゝとゝ

んと治ゝ。一城の勇ゝ。奥ゝ

ゑゝ位ゝ清水出れの人乃清

猛ゝ代ゝ仕ゝの清ゝ

嫡子い清水の兄弟男い主人武則ゝ。ゑは武

勇の名ゝ。兄い安信の真任ゝ招ゝ

弟い教義の右ゝつゝて。衣川へ出ゝ。

ゑれゝ。おゝゝぎて奥の右ゝ

清安仕の分の気敵ゝ

うを買ひ、金をはたいても浦山しがる。清水口の牙二人の妻女、見舞い源太郎
婦い立場のとて、宵月も打物屋よ者行まをたるとけど
るるさ。おいらのごの中もよく。ぢつるひいも情とうけそつらるれば。安心
なまでけてとだんおまんおんなすくあそだろ出そ。ぢるとたんるる面世宿。
米沢の衣八がおごけ。大家ひ。ひよりわいそ。出でのえどろの伏が。猫つさふ
つられておごきらとあ。ぢまりたと。出るまくのわごいも。お氣どしとそ
おちるも。関係方のかよいおれ一人みざし。金牙まへ武別結ち府
より立角れい。妻の立場れ出ひしおゆうがおそうしどぐるるのるね
中角はてきみふ。男君はもおんはわそげて。ぢ物ちまごるくいの
おらごぢ。中角りの拍子ゆまをふりとくぢえまちや。をまのゆりそそ
まくあの行義づよいぢ結ぢのおい出そい見がひりくなちゆかやをむ
ろ紀ちちゆるみ。拍ついそはそうるの中ふも考てまちご。男子実結結任

結ちと一緒とと島ちみのいろいろの孫とみをそんるの出はおれと。物出
も考つぎちの結色ちれた。ぢ中ちのあそごゆうごるるいう。
家はおちるゆちとと考そゆるさ。ちと結出やちのそんがるもひるま
ぶい中のちいそう。年おいらまはやちゆ。武別いゆゆうと親入
ち奥へまれいいろゆりは。ちそく相義云い。行のみる
も考とちれそざんい相義云行よい安信の頁任居保の企ちは
ぢ中のれい。我出ん行ちい。頁ちいろいるるるるいろ屋。謀伐
やんとちんた。ちる。ぢ中あの中ゆ。面ゆる補任ちれ結ち府とうひそ
ろ任ち。ゆ夷の立場とおさんはりうのるの中ち。面状任結ちんち。
行司の武ちと行そ。上落の頁立のかゆる。ぢ。ぢ行ゆて物命と
ぢ。ぢそい。頁任と合我いちぢ。ぢゆ。ぢ結ちるみ。頁任
ぢ立ちとかそ。ぢ任ち逢國とうるい。ぢ和と接ゆちべ。

ゆしき大なる[illegible]と[illegible]。[illegible]衣川に向ひ、敵は[illegible]
[illegible]を[illegible]。[illegible]貞任兄弟と[illegible]
[illegible]の中に[illegible]。衣川の橋に[illegible]
[illegible]。[illegible]大きに怪び[illegible]
氏の大将家衡[illegible]の[illegible]
[illegible]。[illegible]の[illegible]
世のかなれ。[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]

るしいつよく和義一郎と称ていとすべき有。出羽守とうじ為朝。をいろ
て一族法師と基ちいつた。和義いはゆる後代の六号わまさみとう坂東八
とちりしる事いはば和義がよ和にたちうじいけすていそぐ沈基うて大軍
すん。和ましうぐふ関中の勢汁にそ結ち府と言ん。頁ずくいつるし
べうぐ。さいよりて出家先法の大わい。さとと和ひて。編者と出され。ひ義
いと一族とりまい。かう夫川を出ゆ奥州人和義頂朝
が勢ひあれいて。郎敵の名を高じう人。稼く編者とひらるあて
ゑ和ゆよいで結利とひんといつるものをべきや。武別ち高てち度
いとされといひそれいたと武別もいそのれに無とさ体て。稼くいも
いとざりしが。あて武別いつ年。ゆのも知ぐこきうたりふ。シテも編
者とい。言ちうていや。とくとおるされ。ん和られりといべいたるや
ぐ出編者の宿紙の名あい。識るのと紙足振りのうこうひてこき

出編者一天の君の勅とうけて。一方の大将と為て和義と戦ひんとす。
のこ名をいろ子どもうく一族と結信しかく夫川を出て出をいこみけるこ。
出れのいたはくゆてこうや武別。孤悲よ出そちあとあいーか
まれととんとちて。出和とのうやとあげ。中縁の仕業をあてのとち
うこい和義いけすでに勅勅のうこれなうとれいこうん郎敵と名ふを
あて。高ちさ法ものあよ高とつけ。郎敵とこの郎年只光彩と一和如
て。頁任と力と加へ。和義が着れ和そ。ま下ちとあうちとていいそれど。
武別と言ーけっいそれ男士い紙と言ださうと義とすこいべ。一
度和義そと何とつぐい頁任と行ん。と奥紙せて身ぐ。今自郎敵
ゆそて偏ーん色を変ぐ。今と付を結信し。頁任ぐ幕ちてつのそ和義
こと歌さいやんうゆ。義とりさまくうう勇士いとあうゆ。ハテ先に結信人
しぐ基ちう国郡で林ふうこいべ。郎敵しいいれいべ。今夫紙い言ぐ五

男。ニ又ぞやへ。某い人ハ日。相家ニ仕ま。頂任又牙と付れ奴物。まこと
よいス頂任。ハ。れなひ。相家ニと付ん人の陪ハ。色ぶりあつ出すゝハ
品ものゝ。こゝ。こた。頼味方。又牙の陪ハ。そこ。こ。こ。ちされと。ちい物
ゝ。ゝ。ゝ。

ごくいて仏ゆかりに一丈の仏と高さ九尺ばかりの
の毒ないと思とつくりて仏殿にそなへ大きに感じ出来たりぬ
とよばれて出家より一仏都にもぬぎ捨てのけ根
の恨ひへいと思とゆるしたびぬ御ゆるしの
義のうれしさたぐひ貞任が討死
更れば海の岸にいそうろうに神ろうそくへのとさいつくり
改めて見せひらぬ事なれど。おいれやどしてだまりてゆく。
こんなりこの一方のたれ役いかりくしとおくり眼をとてのしぬ
元耳法ぶしてきうね新女房給本ゆかりのそ来のそばにたらくとゆく。
元文れさ思人く新ごのゆ何をどふゆやるされたりやあまへ
あてこ女房ぶにやどられぬ。ら美のたとりされんをうるねでいなれ
どもこらしてるに陸ゆうこ。ぶ塔でいてとさんやねおやさーぐ

うへが分でい分のゆへ行とおうくようくいぞや私よい陸とぐ
されなたやいと思とれさぐやといのゆそ八ようくいと貞任れの
宮安おのへのおのおそくたつ色女ふれば弟ごいと強ひ強ひられて。
源氏ふふするといつくいぶ。と貞任が娘へつられ女の強ひ。貞任は
ふのれしものれば弟ぐるれて出ようくいぶ私女房にて陸ゆうぐと。
色にめぐく陸ゆくるいと思なるいくいぶ人かぐくいたなりく
私ぐ新八沼辛治系久世とそ松田姫女宇成公の新左ようそうう
ひりぐ。ゆうれつくく新へのぐりれりくゆ。ゆうれにて高ゆくくとぐあり
出新けりどなたくこいと思ぐの腰治のと。面ゆ陸川の陸ゆへ八湯
いと。陸辛食くりくゆ。ゆ者ゆ付て立退ゆた。ぐりぐ見たり
久陸くゆゆ。ゆ手の西新面ようそゆ来ゆれなで。ゆるくゆるゆ女の男
ふのりーきんくゆたくて新の新と付てもりんと十年このくゆぐけ

御ぞうもつ。さてはれは私と執りそのゆるぶ武義さん世世おれ
こんなもの。御ろくに毒とおしぶ。ぐ〜八紀の歌と祝ふ。力ひとあて
うとせて。ぶ〜ぶ。ぶ〜ぶ。ぶ〜ぶ

わらうは貧病人とそのけぶり立てやされるわ悔えれ私の歌と
付てやんとそのうら咲て紡ぎ上げ我生涯よりてかとぬそのうき
とうとやとしとうとうら咲く宝蓮と咲てしかるうらぶとも
つるあぶ病まのてお果ぶ。さぞそ方にいたのうのくまんぶるん。
そうさうぶでのかけるは。ろいはの仕掛じなそ動乱と待れたて。
伯のうう駕と付せ動面のうの月じてそ命ずにうし。妹ようこせて
一せ只ごうい狂りの。ろうのあくこもわん。ぶうい只ごのわ歌とゆう
出されぶ第一面に待られぶ。ぶ巻の花うる歌ぶ。ぶ巻ぶ。
月たう出たぶひうぐうるぶ。ぶ春花にいらは花ぶうれぶどの
ゆうの男つきぶ。ぶ巻ぶ花ぶ。ぶ巻ぶ。
ぶ面ぶ付て恋ぶ。ぶ巻ぶ。
ぶんぶ恋ぶうぶ。ぶの脱首ぶ。ぶ巻ぶ。ぶ巻ぶ。

ぶにぶんまとぶぶ。ぶ巻ぶ。ぶ巻ぶ。ぶ巻ぶ。ぶ巻ぶ。
うぶぶいぶうのうぶうぶぶ。ぶ巻ぶ。ぶ巻ぶ。ぶ巻ぶ。
ぶわけぶぶいぶぶの円。ぶ巻ぶ。ぶ巻ぶ。ぶ巻ぶ。
ひうれぶ。ぶ巻ぶ。ぶ巻ぶ。ぶ巻ぶ。ぶ巻ぶ。
とぶうれぶぶ。ぶ巻ぶ。ぶ巻ぶ。ぶ巻ぶ。ぶ巻ぶ。
ぶうぶぶ。ぶ巻ぶ。ぶ巻ぶ。ぶ巻ぶ。ぶ巻ぶ。
のぶれ。ぶ巻ぶ。ぶ巻ぶ。ぶ巻ぶ。ぶ巻ぶ。
神ぶとぶぶ。ぶ巻ぶ。ぶ巻ぶ。ぶ巻ぶ。ぶ巻ぶ。
しずの姫天平帯も前業ぶ。ぶ巻ぶ。ぶ巻ぶ。ぶ巻ぶ。
風ぶぶうぶ。ぶ巻ぶ。ぶ巻ぶ。ぶ巻ぶ。ぶ巻ぶ。
てぶぶ新婚。ぶ巻ぶ。ぶ巻ぶ。ぶ巻ぶ。ぶ巻ぶ。
ぶうぶ抱ぶれ。ぶ巻ぶ。ぶ巻ぶ。ぶ巻ぶ。ぶ巻ぶ。

酒おかして招きよせ亭主がおごりのいとまの業入る一ッかりけよ親
おごりをせ墨と招くれば冥加よわまり仕合と町らとさげそとい
ざくたの耳の招りに入るさ福のつと拙てへ入るつと者と
えさあば招あとたの腕そに痴の紙まだ二ッもうく絞まがしんださ
つまりとんさうめそく酒を帛入る反に自分にい親子の歌をこ
われるは何くよ手水素夜十年のまこ人とたりつ付れて親の子も
ちどでおーそ心ひとそねこ入るくとおごりさ果いる細ふそ心
月の月とあびくらみき若ろうを果やの男てゆーかが十年ん
おこ子供素いこれとや十年あまりこ祝るとこ人をちぶいう
せるぶに動面の月るれだそ親のられれもちぶて歌も付ど
び年月おごりを世不孝の若人りを天たのんゆーあいうぎの
四十四五逆の罪人とびを帛あごりのたぞやしぶきとつりうち

たき。面倒をうげ祈るげきが。ふ。悔んで甲斐区。ひ。月をゆーか
名すぐこもうておるまと。久法とんゆされ。親の付れ一枚まとば法
うせとさうそ。ば月いかのゆ中世方ぞ。親をとれ入紙の方ろうや祝を
へうろうるれた。ふ。ふ。歌の名苗氏うそも世界及いがばちうせ中ろ
べーせうそい歌とけて歌。父が英雄のうをはくさせうみば若の
ろけて動乱とゆしろれゆやせんぞそうのうに世ちうせちされと涙と
をにいひれれがされい月たいは法系紙の入る浮雲とも世界の親
平治義文といは世界ぐち。まあまの同紙といひ紙よいうとの
強本い入るが嫁。ゆうるた弱者一人のようをもひ同ぶくい姉ちう婚
男るれがこうさとるそ。ひ月一ッ。やる歌と付して。ちうせみば。ふ。ふ。
怪びい。ちうの孝行も立武士も立て。病と麻と目ちるに入るけ
しが。ふ。ぎれ。ふ。ふ。ちうあ。ゆうも。ゆうと。ちうを。ちらるべ。ち。ち。ち

ゆくさいまれ。孫本にもあいやされと。高砂の松を。相手と仕合。さ
ぞ性あい和と恨そおんこうやや女房たあるさいうをそ面しぶ分が妹
孫本がきっとそ。孫あておちらぶきにめ子せ親の合にてひさ結の
根えいひ女。十府の里の杉孫といつけいせいみよう人へまてけど。金
力あて兵ふい毒女と臣て。まあ姫一面にもうせざ。親子と恨世
夜きて承れいが。孫法華経。動きをゆるされ。ふてび射面いて手元
と。まあ姫本に孫とあ臣にんべい。く法華にいこと。ろ。さうが孫
老の里せんと。ふきいい第やのとこかとよびさ臣名を孫てみのき
なとさ。豊ふうどへ孫本と高砂和いぞとあのいろうりおうぶり
ききと。まつひぐり。二人の嫁いつれぐらて。武隈の社へ行和こ。ひ
ふうぬ。第居まそぎんふさ法りふ。ふいこれ入とこ人は他へ入
れべ。ふ恨び。孫本こ。法と合れが。ふさ夏ゥ妹とあぐひふ

れつきおうぐをあぐ恨びわこと。ふそとこいうれ

三　へうんだ湯娜ふう発つこ。ふ新の昔絵

ふ奥ぐ紀ふう出て。七世の孫まあひ。方ぐ芝来ふあいふて。考紀と
ふんふ臣にとすぐ。ずとせあまうもあいぐ臣。足牙ふ。ぎて新面
しつする面もつきるき。恨び法ぐ恨ぞ。ふ紀ふる。ふ足牙よむふひ。
恨芝新孫本に新れ歌を付てゆんとこの。奥孫ふそ持ふ女房。け
宮。奥任ぐ幕下に。ふ。新情ふあ。むけべ。ぼふ。ぼんもぼふぐ臣。
孫れい武士の孫せ。ふ。ふ。ぬて。孫本ぐふのきされ。親子法華経
ぐ陸奥のくげんも法ぬふほ。恨芝新ふ。ふ。ふて。び。ふ。ぐ力とふ。
足牙に歌と付せ。ふ法ぐ武士ふ。ふ。ふて。ふ。ぐ。ふ。ぐ。ふ。ぐ

ゆれば傷ありと弥太郎はそのとがをとがめられとぞ。
弟に法しゆくが親の歌いぶしに入乃浦浄瑠璃をぞよろこばせ
よと。箱はしのごていひそれば兄弟おどろきのひ大ふるまをせば。
弟嫁ふ城壁へ入乃のそばとなるれどそ〻ぬ色揚げの力をみて。
兄弟はやとなる。久法刀を掘りけ。歌と高のうめひとも。おんまりはて
まつ上うぞ。ぞふた巻招で。親子法系とこそれ〻ぞてのるタ
れるとかうれ一方合せてあることとげさせ給はれといへばぞ。
まそ肝つぶれふんせるさいむくぞ年ゆおそれ〻ぞ。
の源泉へ湯法せ〻ぞ。そ方逆〻親子法系と一宿。三まりの遍留
の四ざとといふ湯女に付て。場ゆるねはかの仕〻たかさるれた。
年よりて安ゆるはて上編せと。部人のるだがさりんあもちゆ〻く猫
とさすつて行るるく。湯りとなてゆるれ〻。子法系一里塚の私の

りて繰りて。体ゆ〻ゆ〻身が歌とまちりく。強ゆ〻かあい光のり
ういりんさ。ちゆ〻ちゆ〻ちゆ入乃。大身のゆ〻ぞゆ〻ちゆ〻れて。骨のそ
ほんいちとかこのゆ〻くうんと。ちけゆ〻の光ちゆんゆ〻ず。家子たと
光の宿へはちゆ〻。第一人体よ法ゆ。湯ゆ〻の宿ゆ〻ほ〻の在ゆ。場系
ゆ〻ぞ〻ゆ〻ぞ。只一刀はけて掘ゆ。仕事のあい月とさいちゆ〻ぞ。湯と
ゆ〻さゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻ず。結宿ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻
しすゆてゆ〻ゆ〻れ。けてゆんと突法ゆ〻ゆ〻ゆ〻が。武士の一ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻。
いゆ〻ゆ〻の手ゆ〻の人ゆ〻れゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻

はくいとず病死せべそら兄弟い一せ釈の歌の名もちゃぶ。ゆえとさげずふ
男べきが。人ろにうてゑわれいべへたい大会程と色て。仕せやーゆ。さ
ぜん元法系といはせ友をとつてるいお男てかろひ伝ってう。年のさ名と
そうすれば。別はせの友きんさあわろてそうそて兄弟と受極きいりて行ーか
ろう。源本いさすぐちろとの風ちおそれ。粉縁てすらゆどえはいはびい
さと歌ろぐーあってれ武ちるふ。基とろわあり。ゆえとさげさせ結ろんとあ
ひどえ。元分祝先やろ千年の家元わ。と。釈でるろ者の若。今月分
性。と逆ーゆ。元ろ見ごーゆや。秋分のえ奥とゆるさんとゆーひーカ。
拾て。おらけんとする色とろ。源地中にてーつぶら。コレ源本さんゆごさ源い
男ーいひ。別深ろろれいろ男ろく。行んとわるいかーもいゆぶさぐ。おまんや
ろーい而ーの夫出拾のわろ。男ろ中色とつけて。ろるだうけ若ろ三つ人
ようとゆづけて出れ。釈ごさるいんぐんぐんぐ。拾とつけまていゆすが日夫拾

られ拾の男にて。どゆいひすゆがせーれ
のてごの歌がけるいるろ。そんろ兄ごてひろゆて。釈日るのちとえ。
ゆひいのんろーまて別ろよりあろりしちーとん。命にりて行とる
いそりやさね。あらろへーよろてんのんけそいかるんとカにもとけ屋あす
る源本いろ拾地ぐ人のろ年のほとれて面とあろ砂や年本ん
にすれざる。釈の歌とゆよりんのてきまんろく。まのるろも釈よひと
き男ろとーるるにも公つぐ。ゆろにてるひひさんとて色ろ礼のぐん。
ろ拾地れろのきます。入ろれへゆまびやてるさんせ。源年のゆにるいに程。
はるい男いさーるず。まとろのてにて歌と行んとゆひろゆてるゆるん。
かてきぐちれて行ようれ礼そ尾のるゆ。人かいつまそふつまの男
どのとりぐゆ。おまんぐゆ地まゆゆ。ん公の屋でいつぐそーまんぐ出ていぐわ。
向ろきのろれ礼若ぐ源ーぐゆのと。おろるゆるさぐ。わろゆ人拾と張ろ

注ゐ引とりそはへ〻れ。久家一達よつきつやる一微入ゐ。二人の妹ゞ
ゐ色をもそひやゞ祝れてやるゞ郎まゐと。ゐひとんゞる祝一合ひるゞさゞ
こそ。眼に角こそ久ゐをとこそこそ祝め祝こゆそたゐよゐ緒ゞゐけゞ
をこれさとゞ祝とくれゐ沼ゐる。妹ゞゐも妹ゞゐゆゞすひ家もたゐしゞ。
ゐゐふこびまされ沼手沼ゐゐゐゞ悔ゐ四ゐ方ゐ久ゐ。祝の祝ゐこと祝
くれゐこでゞすゐそゐゐとこげこそ。着ゐこのゞれゐ連のゐゞこゐすゐゐ。
一方合ゐこゐゐこゐゐ。ゐるれた郎の祝中。ゐ見こるゐ月ゐ
ゐゞ。ゐゐ考て着祝ゐるゐこ郎きこゐゐ。ゐゐ沼ゐこゐ巳ゐとひゐ。
ゐゐもけゐ病人ゐ祝ゐゐ孔人ゐ月ゐ。祝ゐ欲祝ゐゐ見ゞれゐ月ゐゞゐ書
ゞゐこゐれ。妹ゐゐ祝ゐ一方合ゐこゐれゐ見ゐ月ゐ。
ゐんゐひゐれゐ沼ゐ着ゐ入ゐゞ命ゐれゐゐゐ色ゐ。
今ゐ祝ゐ病ゐゐこゞゐゐ祝ゐ月ゐ。年ゐの月ゐ病ゐゐ。病ゐ

こゐ沼ゐ梅ゐこゞ。ゐれゐ月ゐ月ゐこのゞゐ祝ゐ。ゐ祝ゐ方ゐ人ゐ。二人の妹ゐ
祝ゐゐ。ゐ方ゐれゐ人ゐ合ゐ。ゐ月ゐ沼ゐ月ゐ月ゐれゐ月ゐゐゐ。
ゐゐれゐ祝ゐゐゐ。ゐゐゐゐゐ。ゐゐゐゐ。ゐゐゐ。二人の妹ゐ
ゐ方ゐ祝ゐゐゐ。ゐゐゐゐゐ。ゐゐゐゐ。ゐゐゐ。
ゐ沼ゐゐゐゐゐ

一夜あたおあいるされてぴろ色てぐさあてぐらく粧ぴ女のうづら
行幸とその人賛あ仕えて色行ぐあうと色姫君
あうあ中せぴ清らぬ安つりそ高のあつひあ中いぐ色ろ帝ぴる
まあ梅のおぐ女中れ推しさやきあうぐもれ中ぴ頁ぐ色ぐ耳ま入
いそのあいえ指しぴ嫁冠ぐ人と招ぐぴ月形ぐいあ男ぐ色は。
あういいぴつれぴ今軍徐ぐあうあ中ぴ帝ぐ色ひゆみのぐいぐ色ぐ和。
姫情姪ぐ中と性ぐ色ぐする君あれぴ金徐ぐ色ずぐいあ色ぐ色海ぐ中ま
ひわう方へ行ぴ色ぐ男へ行ぐのぐぴ行ぐ中ぐ月ぐ中ぐ行ぐ中ぐ色ぐ和ぐ中ぐ。
位ぐ冠ぐ人ぐのぐすや高ぐ家ぐ位ぐ徐ぐ色ぐ男ぐ中ぐ男ぐ中ぐ色ぐ人ぐ中ぐ色ぐ
ぐ色ぐれぐぐぐ色ぐ中ぐ清ぐれぐぐ冠ぐ人ぐ中ぐ冠ぐ人ぐ中ぐ冠ぐ人ぐ中

大屋にいるげつけまびかぐべんらんよおろぐろしぼすぼ松よ弱ぐろ。鬼弱人
ひんぐらぐぬいるぞや行よの場うそ茗釈姫とかとけ〜二ゆめる。
かさぶぐのうよぐまいのとぉおてうるとうくぐぶしぐぐぶげさふおうぐぷ紙
もあぐべかされて出あよかくらんとゆんとおうけまびぼ弱母ぐてすぐう紙
あるたくくてもうう男にすそうれてぼそ伝うおるうろうん一面るたうけ
ぐうるとさあのさうくゆぐ面八ぐ血刀よるれつきうびきみひうれびぐすず情
のすくぐぐぐぼうぐべるるいゆくぐとぼ姫と肩にけぼ弱ぐぐ立の
きうるぼあるとれ剛うるる弱ゆぐぼれてぐぐめる弱うくぼさうて
ゆるうぐれいぼちようるしふるまひうり

風流東大全

同緑

第一 子板の闇小迷い秀一会ぶぐ元祖

第一

美ニいあぬ扶ぐうかれ人の面新
辻堂の中花より弱の白い松の如中
新の命と原弱ぐ月待の会い新ぬぐ傳

才二　味方の軍勢勝色えとる盛れ女房

大力の合戦に勇つて敵に勇士のくてくき
絵をきりでつてはれ新田れ祈祷
面くのまをしりう友の女房がとりわひ

才三　色事も軍法の一つと雅と姐妹の中

角のるい女れ弁舌やりうか和睦乃役
智略といつの子れ立ふくい色の一みち
非紙い方後の謎ムのくけ紙をの中

一　子孫の家ふ迷ひ苦る一念の又ゞ亡魂

一念又百生業念立寄初といつう。ひざん中ふ浅事ム苦彩ゞる亡
形ゞ。妄事くといてんゞる。一ム面の魂ひ考よでまう。ひとゞ命とと
ら れ ゞ る 決 ゞ を。 婦 ゞ 神 ん と ゞ ひ い ま れ ど。 我 ゞ 殺 い 古 ゞ の 色 の
出ゞ。魂魄ゞて中ゞ。家ゞ中ゞ。
芭蕉ゞ辻ゞ迷ゞ。魂ゞの中ゞでゞ
清水出れのゞ浄瑠璃ゞれゞの
又ゞの子ゞ軍法ゞ出ゞて中ゞ
仮武ハ。只ゞ中ゞ鉢まで迷ゞ
ゞと。情ゞおさゞあゞ入ゞて。ゞ
蕉ゞ辻ゞて風ゞゞ。興ゞ

親ゝ代の人〻身のもと立かたれゝて立て乃ち高野の親のかのは
いるのとぶごく嘆に入とゝ人〻るゞ棺御ゆるゞ物語して棺と申方へ
御帰り。元来あられ出さう〻。ゝとい申て嘆き仮人肝とつぶ。棺と接
て居敷くにてゞ御げ失〻り。高野の親浄蔵がゞ御だとうにひせ三高野。
ゝ、られやもう古ゞ行て姫の御ゞ御ゝ敷されゝ物ゝといゝとゞ申ゝ三儀
ふ浄まる大面ゞ御ゝ〻だとわゝ上ゞ辻者に立ゝて面の眼鏡を結
御ゝ。御も活ゝ久清い出の人〻高野と知ゝ申て御ゝ〻。無房徒
ゝ浄蔵ゞ面形ゝと表ゞ上ゞ。儀の古面面ゝいゞゞ。そも辻者と
さいゝ。高野ゝ三高野失御ゝ〻ゝ。地灯とゝ申ゝ。たゞ
このまんと言ゝと出て御ゝ〻ゝとこれゞ往帳ゝと高ゝ〻大の法師体
御ゝ。ふきこのまゝいゝ御ゝ申て無房いまのそゞひゝゝそこの四ゝ会れ
申て御ゝ〻。我ゝ失ゝも面ゝ古のゞんゝそ。高野の上ゝすゝ

御ゝ〻。地灯の失ゝとゝんて御ゝ〻ゝ出れゞ。ゝ法師面ゞ豚ゝとつゞ。ゝ高野ゞゞ
ひしゞ。ゝ〻ゝ男ゝゝて御ゝの高ゝ高野の御面ゝ。ゝ
へどゝゝゝ失御ゝ〻ゝ出ゝ高ゝ体ゝ地灯ゝ面ゝ御ゝ。ゝ
その高ゝとゝ御ゝ面ゝと御ゞ。ゝ。ゝ高野ゞ地灯ゝ御ゝ〻ゝ。
地ふゝ〻ゝ御ゞ地ゝ御ゝ体ゝ御ゝ。ゝ。ゝ
高野ゞ御ゝ〻ゝ。ゝ。ゝ。

二之巻第九
大森彦
前
佐野の伯おそれる

いてのいろとするわるくそだゆへ入たしろくて紙でこゝろぬぐれたる松竹
とい文字の世界いぐんぐいそちこい陽ごろの兄弟でも行ゐんとお
のひゝらそちぐ方へ行ゐ紙まの強くそまひろれ二重へ家へおのまるもぐぐ
れんかのちぐ巨ゆと一今れ伝ぐとゝ一ぐれ伝ぐとゝ一ぐれ伝ぐとゝ一ぐれ
きの一俵よ病ゐ病ゐせとぱゝ強本ろつぐ強本ろつぐ強本ろつぐ強本ろつぐ
帝大きゝ紙ぐろさ立強ゝ拙い妹の強本ろ強本ろ強本ろ強本ろ強本ろ強本ろ
入ゐとひろまめゝ兄とだろろ病ゐとゝ病ゐとゝ病ゐとゝ病ゐとゝ病ゐとゝ
へ結めいま二逢ゝて紙の紙とたとけんとゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ
色強の立ゝ立ゝ一ゝ食今ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ
ろ。墓礼とのまるゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ
法墓礼の陽ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ
刀ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ

方が紙出れの入ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ
いぐれ巨ぐ入ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ
毒ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ
ぬよ強ゝて伸ゝ一ゝ紙の紙ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ
ろ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ
ぐ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ
紙紙ぐ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ
どまれぐ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ
ろて存ゐ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ
つぐ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ
ぬよ強ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ
ぐ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ

我者ゝ[illegible]の和尚ゝ人の祖父ゝ[illegible]ゝ結髪の者ゝ[illegible]
おりゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
の[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ

みよすがきその[illegible]へ行ぬまろさん夜人のうぐいすのよぶいはせうぐいす
落て同じうんとそれいどうぞやれやれとのぐが[illegible]でいゆうね
うかとうなんいれたもおのじこのちまのはしびを後へごさんれいこんとと
[illegible]はこうかさるもはおかいとそうのうたこ三百番といふ合うてい
[illegible]ら[illegible]ぞ三百や二百い[illegible]ま梅がたまりて[illegible]やりまれ[illegible]
しこと情あり行われく[illegible]ぐいてい[illegible]ものを[illegible]
こい[illegible]ぞ三百あるてかてぐ[illegible]後へやぐいはしたへとうれるぱてそれい
はさるたるてかまこのうち月うけさせまるふぐでい[illegible]も三百番てつい云
ゆすこんごうは[illegible]ぞどうをゆえて[illegible]そも耳を抜て三百といふ判い
出まるねと[illegible]こんやれとぞ[illegible]ぞ後の法合とゆてなすぞ[illegible]
まねと[illegible]ぞ三百て今とかたをみたて止てうぞてやれとて[illegible]を個
んとこの者の[illegible]きざすも[illegible]ぐこ後さ[illegible]ぞ[illegible]

[illegible]は法合と云[illegible]衣川の屋形ちうの[illegible]のうぐいすつて[illegible]実あるとよし
ふ未こうとぞうこあと[illegible]ぞ[illegible]後代の後合をぞ[illegible]れの[illegible]
冥加ふい事さいらひあぐこ三百あるうとされるぐいきこうそをぐいとかこて後
して[illegible]のこの後[illegible]事をぞ[illegible]後合をこうこうれいぐそ[illegible]
[illegible]人[illegible]ぞ[illegible]と[illegible]ぞこいいうこと[illegible]こんとすうこそ眼
こうこれ[illegible]三百あの合とぞうこそ[illegible]後合へゆこて後合うぞのゆうぐんとうこ
へうぐこれぐこうこきゆれ行とうこ[illegible]ぞいとゆ懐
[illegible]の古[illegible]ぞ[illegible]れ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ

だうり人のお願とかうて。云葉とうらすと。姫御の御ふと深ゆるぐ[illegible]
れば沼たち様まと出て。ぐあや今きいつしが。聖人が若彩出ち
昂い御とそゆてられと。三百姫海色。今を。わ御ぐ[illegible]へられて御
ととあんさ。姫ぐにい海さず様ちて。ぐは御ぐ親方に深。今我妻房
とてつれてふと。ぐ人ぐを今い親ぐの姫をすらんと。今にてれさる三
百あとそはとうやと感海ぐ。ぐは御も御手をゆて。さんいそすい妹
ろ。おまへい姫れ姫ぐ。ぐ人ぐひよれ行られ。海ぐそおきにくろ。ぐ我
今而て。三百あて分御で。今ぐのごくゆとうて海ぐるといぐ
世ぐひ人ぐ。海昂ひて。ぐ人ぐ。ぐ人ぐ。ぐ人ぐ

のくさけがやとして信代の家人忠顧のうら信とゝ
とんで負傷ス義。義川へ押寄る。負傷そこなのそ今永ら信こゝる
金澤の軍勢と流て要塞の彩西へ出。さくへさんとゝろ
いて源氏の勢に紛れひ。やがて敵方そうへと立間とうろてよ入こゝれて
やう義。源氏の勢ら七百騎にてたゝど敵の陣よりこゝれば射場を
へきすでゝ。ゝ山勢ゝといつた。諸人金澤のうら信ら。ちつた。猛ゝず大
軍のゝ。ゝうて入りてさうこうずゝと新ゝで。義ゝるゝさみわゝしこゝ
任ゝ軍勢ゝうのてゝ。義川の城へ。ゝげ。源氏方ゝ。陽間作て
ゝ勢ゝ。ゝおゝゝて。義川とゝゝゝ

[illegible]軍の脇ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]

ら世のつよい侍にてうちきり中井脇のこびきとあれば
わそびされ万一は奇異しかの義分のれは長の中志に移りにて中納
言へ入ぶと怪めば〜基わがとてけ中間と申しに中納言まとあそれ
ましに中間色りいひ人させるえた宮博ひとくれの中働さ。
ゆくえ人といえさせられず。怪力ら性和のめ〜ら捕えられ移りられも。
中真の男とけうせるひ。ものと堀を雑兵の中に移れ在おられ中
ゑそ中ひとりさらびと怪とえびしゃけまいに移りられる。
人けれ赤〜ら〜ひ計策にわず嬰孔子の孔の子の自
〜〜ふるぐ。ものこえとしえこびくらけるうく物の和行やびべ〜中あ
ひらて中前おそ中ひりと体のちん中ひく物べ〜ま中けりの中後〜と
〜第通ゆ〜て中おと三郎兵の基りの中陣中屋へゆ〜ひきあの義
惰ものおそれど中ひ〜げ〜文文物物〜ゆ〜ひ文中ひ〜ひる。

三郎ひく物〜きときれ宮兵の孔義の上とのうえ陣あ〜まう。
八橋ち〜家おれ。ものれは中ひ〜ひ中ひ〜と中ひ陣文のとう
ひんてきのど〜ひ文物の中にゆ〜ゆ〜ひ〜ゆ〜ひ中ひ陣文のひとい〜中ひ文通
陣文へまで義おそよひ〜ひ耳に入て中ひ和面の上ひ〜ひとゆ〜ひと
ときまるひ。中ひゆ〜ひ義おとものひ〜ひ陣ひ〜ひ中ひ陣
中ひ中ひ中ひ宮中へ女性の相手文物の上中ひ〜ひ中ひ〜ひ
ひゆ〜れひとみひ〜ひ中ひ〜ひ中ひ〜ひ〜ひ〜ひ〜ひ〜ひ
ひのひとひひ中ひ文ひ中ひ〜ひ中ひ〜ひ中ひ〜ひ〜ひ〜ひ
ひ中ひとひ〜ひ中ひ〜ひ中ひ〜ひ中ひ〜ひ〜ひ〜ひ〜ひ
ひ中ひ〜ひ中ひ〜ひ中ひ〜ひ中ひ〜ひ〜ひ〜ひ〜ひ
ひ中ひ〜ひ中ひ〜ひ中ひ〜ひ中ひ〜ひ〜ひ〜ひ〜ひ
ひ中ひ〜ひ中ひ〜ひ中ひ〜ひ中ひ〜ひ〜ひ〜ひ〜ひ

るくいぶせまるひんいつぺすぎぬすくのものこえれのぬぎにさせふとそうた。
あのようあれはけはまるくぬぬ法五へるけげけはぬはぬはるくれあそはさきであるま
やうにいひてはあのくのおとうけた貞任方のうへは赤坂づれてはたして
行ぬ光敦及ぐハ情たくとハるかどうたてうげ姫君れとうづひうくてあう
れまうかどもちとこのるるふやうるの名屋そうやはじがさ名ぬ冥い河の宮。
法師とうぎまで出まあづくいそのの仕合法界貞てくてようまいでもぬ蕃
たくそつくのでりは。侍も貞ろ〻今紀ひるうこ。こちの武則方はさび
の軍に利るく近ふくとおとうげるくもいえこれの様さ敵さくひやていはあの
一のおとうるうと義家れに涙さはぬそうちのるぎにさるていぬくーが
うげに牛ごの武則どのハ法氏方へハ伯のるぎるい仕合まくるぎうとさ
せくいあ方のうひそうちれうるるるるをていまんぐちあコレかどうるくは
後ぎるひたぬひあ中ぎくぐ義家れにあうくとやされまるふたぬどとあいせく

いさうまるすあ。あうるる貞任が一方の大将ぬ法界光敦の女房。歌ぐさの江河後
ひんまいてはゆぐんとあそぐすあのくあ中すれいぬ東方にあれ。法五まくへ
武則が妻。ふ後ぬかとうるのとぬまとるるどうるぬ義家と恢てきてるる。女の
名面沼井内公女家ぬしぬの全云法てゆるるるぬひよ遠いがるうるのぬ
の中にいあるとうじあの姫ど。好あくくいひあるぬるるれいぬでひうるぬの女と後ぬうてはあく
ひるとある。弟通とうとあくたぬ法ぬれ。ぬ法ぬ光敦の西義よ方ぬ少ひ二人の女よ向うるるひ海くいありの
おくれぬ。大ねるま敦義云西義よ方ぬ少ひ二人の女よ向うるるひ海くいありの
ぐ。義家ぬあくくくと弟通と敦ぐるるくと法辛のうくるあも和どぬはくるく
わうるふいうあるのぐ子細とつまずもくるるせくるの中法ぬうりさんひうぐくるぬぬ
系出ぬ入ぬが婚男ぬ法ぬ光敦ぬ西方後本ぐるりのぐ出いれとあい様法
男まくくく

[illegible]
[illegible]ども、[illegible]
[illegible]
[illegible]

ぬぐのうつくしかりしかのうつくしかりしかのうつくしかりしか

いくさ手ぞ。骨肉に色つてをがてねの。私負任が始く密色せてる。今をく色
とゝそをとゝをおくる手だわず。法隆寺の企わるよ。そこをとゝさうちん
ぐゝめ。衣川のそこをとゝのゝてゝすわ。今友帝よりれをらみゝと後代せ
よゝの出縁者ちつて。負任保長と其ゝの酒伝。勅歌とぬべき分ゝの教子ゝ
の科をちゝずゝつゝれゝもかゝる法をとゝ色して。宇都宮と其ゝ後計ゝちゝ伝ゝゝゝゝ
て縁者の宮をてゝ今ゆんとゝちゝ。拾遺へ入ゝゝゝ。拾遺へ入ゝゝゝ。拾遺の命ゝゝ
のおちゝづゝき。為義ゝよゝてゝをゝとゝ。ゝんゝく負任が為形へ入て。ゝの人のゝ
縁者とゝすゝせゝ。ゝんゆんとねゝゆゝ。ゝびゝゆゝゝゝゝ。負任が為義。黒義
人ゝ稲ゝ本ゝとゝ。追捕ゝて立のゝさゝ。ゝゝ命姫ゝ石つゝ色ゝ。ゝ色ゝゝゝゝ
のゝとゝいゝずゝゝ。ゝが母ゝゝゝゝ

風流東大全

第一　昔の腰元ハいつまでも人ゝの奥様

目録

釈迦へ返り車の巴りあつまる縁の
矢しわ盗氣い高ぶる邪心
継ぎ紙ぎる手縄い人目へ乃いまあ

堀左

仁貴いと云ふ女の母ごにいわず夫婦の仁里ひとりついそ手れしうりと先と
ざい果のひそ仕負任りとのたりられ亜青きとりけられ。奥れこぬ
ヤされ。おのこのおく母とうやまひ申ハ。まを形ご行毎の中へ山ぎ
ゆるれ。おのこのおのゝ紙ゝ考ゝ行ハ。ゝ形ハ縁ちのゝを仕
ゝゝられてゝされ仕。ゆくさまニハいつさまれど。神てゝとさゝとハ。指君の男
のと後ゝ云わゝ。じいゝの負任ゝ別ゝすけ。おのゝの家と宮せ行人ゝとゝゝ。
只ひ中後いゝ中ニゝさゝ。と。茶てゝ人ゝ行とけゝ。ゝ人ゝ
結毎といゝゝ中ゝさゝ。ゝ形ゝ。ゝ形ゝ。ゝ形ゝ。
ゝゝ人ゝゝゝけき

才二　指ゆびの大小腰ぬとりて儀ぎ右義
ゑとさつて公の間さぐりあて右ぎの忠
公の角振ふる鬼うしはうの徒毋ゆ
丸の中へ清ゑ清ゑ骨ぬさ毋房が働さ

才三　紙ぬ清子紙ぬ毋の差然公
寄り力ねきさ〜ゑぬ毋乃一言
悪のあふ指ら賢毋紙のあふ指ら者ら
死ぬるもはるも大ゑ二ゑ子ゑ忠

一　首ハ縊ゑ人ゑ小つさぐの人ゑ公奥拓
ゑ才七歩の才に先人の腰腑と拓て生伯と紙のあ名ゑるしば弟義
ゑあ人のあゑ公弟。指ゑ者ゑ人ゑ。つぎとけいつさる伯ゑそよ継
毋の中にもせよ。毋とよびれ拓ゑいるゑ弟ゑ別公あるぎきゑ。
さね伯ゑそ〜ぐるハ。仁義とゑ〜ゑ拓ゑ生民風拓のゑ。ゑ〜ハ拓ゑ。
おの人のゑ者ゑ人ゑ者ゑ人ゑ者ゑ人

ぬきうて大ねぶるい。負任いたるぶ。新て母のつぎてわ侍ぶんといひてうるい。和
と云て味方にゆぶんさを。軍さのおてうるおとうてんとのぶろうてをはらん
うれぶ。牧条と体伐せようの編音わりと指ぶて。条とあつ臣ようぶの実
ぶれうそもわぶ。ゆうぶのの特をひて。牧条ぶ刃の上と後ぶ。約歌日まこ。体伐
せようの出編音と。負任ようぶされや。ぶ合和とおうを。て上活して
後にと紀ぶ。羅ぶき方と条向せんとうをぶ。ぶを編音の実
うを実とぶ拾わぶ。ぶを条せんうを尽のぶ。ぶを和をとけぶう。
条ぶうを人と。ぶわぶ。ぶ実者とぶを和ずていぶ。ぶ物をのぶうを臣ろぶを
ひうれぶいをみうをぶ人ぶ。ぶ抵とぶを和されぶをひて。ぶうをあをてをうをべーと。
をぶく行と指ぶゆみをぶ。牧条ぶを。ぶいぶく出日ぶて。一先国府へ引ぶうふ。条
ふ活ぶ人うを物のぶおのぶのおぶい和ぶを。ぶの出編音ぶて和ぶ。ぶ和ぶ。
ひをぶいと母の状編と切とのぶみ作ぶ。ぶ出ぶて。ぶその編編といふひうぶ。ぶ人の

世ぶいざうれぶ行ぶれ。衣ぶ人のの屋敷ハ表ぶうく。おを玉造奥ぶうを法ぶが
方へ入ぶいぶう。身ぶうハ中城ぶて宮ぶてわぶ。母ぶを。ぶを和ぶいく出き
ぶんうく海ぶをのひぶうてびゆうぶうう年のうれぶと。奥のうへ法ぶかれく
りて臣ぶけう。姫条ハ怪びをて。ぶをそいうぶうを伝ぶこそうれうれと。
ひ条の条をひうを海ぶひ毋れをそ。ぶびをておうをてうぶとみうれぶ母を
うを和ぶ。ぶうぶきハおのうをかくと。ぶ一ぶ名れぶ。和ぶ入て毋のまうぶをまう
るれぶ姫条うれうく出ひうひぶを。ぶうを臣の毋わや男ぶを入て新ぶちとふう
持て出ぶるうを者者とぶわしうをもみべうをぶ。ぶを上とうぶを臣氏と和侍し。
来ぶ和てゆうぶうをの出わうぶ。ぶうをうぶを臣氏と和侍し。
しをうをれぶ出ぶ屋ぶうをうぶを。ぶ本と国ぶの出役と
ひうを臣ぶ出ぶ。ぶ和ぶ。ぶ人ぶ和ぶ。ぶ物ぶひのうをを。
んとの出ぶ出ぶうを。ぶ物ぶとうぶくを出をを出ぶれ。

ひきれなべぶたの上の五徳と金屋あり。しゐ
もゆるさん男ごろしのいつぢんで。屋敷とう稼出て行ぞふもく屋ばな。
まいにくいたつへまひどうもかゆるみ山縁者と。無ぐらいぞうちやくか
といつふぐるこつけてこいそうち男ゆくよい釈の前こうるとかぐみすきされぬふて
きのこ者ものなく。海本を和睦の仕ようらをゝ。細とろつてそちといつ
ちるといけどりたせうあのじ毎ぐろうこと。じまくとろてそ行のあまい
銀よかうよふかろうこ。コレ四伝鼻ちらいづくぞ。それあざされゆうたして。
上毎表へちて活をちあくいるとぞのかゆまずきの手ちぶついて来也
高藤和と海本はいゆひ。ちんとは。じがいまねるう。継毎ごのつりまるたくこの
ちのひんないこのへ。杜義えの山ちおいて。美角とさくへやたぬ。ちるさいた合
猛えてぐうこいふぐいつそれらぐうこ。さあおのへれ山仕ゆ七ゆまちん。ちくこい
ゆいよちんこうそちんとよちてふ毎ごくひくつまちそおのへれとるぐづよ

えちふとする。海本ちに。ちんうまいせちぬ。ちぐてまつりとちうげこいこつぐこ。
姫表とりそゆんとすると。海本ちくこちぐるの仕ちまあま
うせ。ずゆ毎山ちのいつちりの海こねこうでちるこくこいつ。ちのこのちれ。ちいこ
ちこいいひくちのこ。まぐきゆ毎ちこたつこ二ちり四行そよこれちのこまちと。
継毎のそいへけとすりへいちぐるばは海本ちるこ。ちんぐこ
かけちとちこれこそ。ばちてのるちぐるいぞしくこちちこいる人ぐ。ちのへれの
山毎ちゆ。ちるれの山里りちかつ。ちいそ。ちこちすてのまぐこ。いゆ
そちてぐこのちる行けるけれつきゆ行ちくちんちぐいれちうこちの風ち
ば学屋ちゆいふゆちこ。ちいちるの松ひくこちるこちこ。
きちぐひちの海ちの母貞伝ちくれちるちれど。ちれ海ーすこちるちう
いちゆちてちるこれ。ちいまぐきよ。ちゆちうちくこちゆ。海のちれまちのこ
ちうーちのへのちと。ちのちと。ちひ。ちゆ。ちそぐてあげてちれぐこのひてれる。

ぬ。こうさいの新まつりゆ。つくるいのうすとゆ出されすぞまゆ姫ぬとう
このゆとい。笑かぬいとうくちゆゆくちゆゆの花とおぬよ人すくぞらゆ花とゆ人こん
で。姫ゆうと。れとさくに移近するいゆのくゆまとゆたゆゆかるこいやかすす
ねゆえとうゆて。先ゆんでられおくれゆそゆすこ。ぬゆのこんそ負任れの二番。
奥れひろゆそじ。ぬたゆのゆ巻帝まれのゆすれ。ゆくこそすこのと
ゆゆこるゆめて。尽でいゆうれゆのまゆこいゆこそ。新てこゆのすと新てこゆのもそゆよい
まれでぬ。笑番れのぬられのゆ。ゆるこるれと出ゆでられよよの笑番れのゆ。
その出悪とうつこめたこそこすゆゆ。尽ゆのゆこゆおれれへのゆいそゆこうゆいこれ
ねこゆ。ゆこゆやまれついそちゆゆきこれ人ゆもこちゆこのゆこぬと思ゆこゆこそ
ゆとれいゆこれとこそゆこゆ。先ゆひそゆふこゆとれさ。新の方へ姫とゆゆ
ゆ。よいゆこいそゆまこれゆそゆ。先ゆでゆれへゆこゆけ色ぬゆこもこねゆそこゆ
人ゆれゆど。ゆ情ゆこゆゆこれゆて。新のこゆこゆそこゆ。負任れの方ゆぬこゆが

余ゆ人ゆてゆいそゆこん和ゆこゆまゆこんゆぬゆこゆ。ゆこゆ。ゆこゆこそゆ。
一番ゆいこゆひゆこゆゆれゆどゆとゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆ。
ゆこゆそれゆこゆこゆまゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆ。
ゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆ。
今ゆこゆ新ゆこゆこゆこゆまゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆ。
れゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆ。
ゆこゆれゆこゆれゆこゆれゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆ。
ゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆ。
ゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆ。
ゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆ。
ゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆ。
ゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆ。

ふ者おれのひさかたれば、式部く強とさそれてぐぶでいとねまでも
まびことしてあるてぐぶそ病えを面そいを病あるとあるまめまるあ。ぬぐぶるない
わさかきとしてのぞらを三つれさるをてうへとうへあるぬかてこ貞ぐうをまび
やいのとぬりく炎のるふ面貞ぐうこ三ゆり。おのへのうをとんて肝を
つぐでうるやぐしいゆゆり。紙ごのぬぐわうて、紙されいあるるされるのぬ
んぐでいれこいをとうをそのぬへぐぬるへ貞任ぐ。おれをうれてのをこ四カの
ゆうまとあんるるされ。法人とあぐぬ考むとうてぬぐびの四の一方のえれも
すぐさこいゆぐい紙のえれ信ちうくあるるうよ。楼嘉ち待れを編首
ちさうく紙紙と算けてい貞任を住し左に紙紙とする。紙ぐ紙方れあうてへ。
つさうてぐふ信ぐ勢ぐ。貞任とうてぐひ。考るうそい信に利ぐるい男を
ゆりてあを紙の方へ行れへおのへのおぐ貞新てあれ。年と番考れ
の信あのと。四郎紙若ふ友幸南へ信けれぬる渡とうて結字存へ家

そづのあにぬひしようずゆあるされるさぬ考の天界のぐれ和と紙行ん
あそぐをて。男をこの多縄れあ。いまうんとうこと。紙本を後和立へぐう。
世でてをあれお紙れこをとうけさをてぬうんくのまへいひをけぐるへ二人の食ぐ
あるへいをあくとをつけびへ。シャすいさんあるくと。男紙ゆうく紙本をよ
協ゆをと一こをそ引を縄をうけ。さわお紙れのぐれ和おぐや。紙考にあくまへ
きれていひそれへ二人のあいんぐ。こをてを。三会こ紙ゆを男とうこうをぐ。
ぐひのほ。まぐさゆお貞ぐうぐれてうを多縄をうれ。コレ紙毎ぐかけるいうへ。
男が出てさ料ぐうかうを縄ちのれ。ぐれ。そぐうへとゆるるそをうをそをこのいを
ぐをれれぐう。ぐうきへにおををうておきうれぐうへうぐれのをの紙れのの
うるいへ。毎のをぐをうるをとぐをてあやうり母ぐ紙うぬ貞ぐうをのへをれが
信ちてぐをうるいぐをてこをうあげ。ぐ。よいうりやとわざ紙ぐ。
結毎のうれをふぬ新ちへ紙へ。ゆ面紙井内へい兄ぐうとぐ。まれ考へううり

二　拾うて人の太刀緒の長つゝ儀侍の心義

拾うて絶とんで二馬とびつるゝ事ある兵庫の新蔵と云人の子にして姫君初めの御ようりうそだちにて遠国に住居ひろまりの御方へ入来りの人付て来れとさびくらい海をかけて人のびにけすぐうの新方へ入来りの人とさらはひ給毎ゝ同じ事に姫君に絶をうけさせ色ゝ思ひの方ひ給ふ程に新蔵方にて追ひ出し新蔵の方にそのまゝ留てゆけんの行ゝ思ひ給ひけるゝ事を人に伝ふ行ゆえ人ゝ名の中ゝ人ゝ歌の大和とおもせとの中に二ゝ人ゝ歌十信日ごろ新蔵

而うとゝのまゝ新蔵ひ給ふ継母のゝみくゝわるゝ中ゝ人ゝ人ゝ
人ゝ歌人ゝ男ゝ男ゝ新蔵ゝ歌ゝ
の場ゝ所ゝ人ゝ人ゝ住ゝ居ゝ所ゝ
姫ゝ中ゝの新ゝ蔵ゝ人ゝ
ゝ新ゝ蔵ゝ人ゝ
ゝ人ゝ
ゝ人ゝ

らるれいまたあるまいぞ。二人の女と門之ゆけば、法本しゅうの世も、蛍とかなるもの、
異形ようおそ色いぞやくかま毎とみゝそひゝれ物ふう、継母いうれさうの
彩つきいて。我のう母し、姫君と、滝ひけぐ〜押入。身いからにて、あの
つさゆんくさうりと、彩若丸、まりて。あの村のくるとうつさこれそと
成。こは、ゆるれ。ぱんよいふくゝ。ゆうくも。あひきいやりくれ。ぱすと行くゝゆ。
おつくろひあそぶせ。おつくれ。ゆ母よ自あよくそ。ゆ中ハやに及ど。清国さも
ゆ。つくゝ感じくかめ人いどざねこ。ぱ。ひとありて。ぱ。ふ。川をすぶり彩ま
するかぐ〜。継母とつ。ゆ名を世ゝへ。ひろ。あすぶよのう。あまいにさきぞお
ゝびるさくこうそ。ぱけうくゝめこうれそれぐらぐゆ。けさを。姫君
と彩さゆくれ。彩くたいかゝ。ゆ。ゆ。ゆ

あるが、基のおまんの古さまにて紙ごれつられ、紙ぬかて面白のつごとつと
ろ、はなそつとあさ去るれの新右ゑ門、あれはこれ果
紙つみ、ぐ、ぐえんごられの出ぬ、ぐんけつて、ずに行ごろの出られ、その出盛之の新
とんで、土行ごとの拙者ところあされ、田れとい、ぐ、ぐ、ぐ

めれば、ぜんこのうたとけ、すあのまけすこ
ろ、ぜんくとさぶの神と引ぶ、ぶて。
ぶりけ出ぶとうそて、ぶ、ぶ、ぶ

分と果さんといふるこゝろなり。コレ奥ゆ
あけ行ばれてこゝをこれおもてこの
いめさんぢ。ふゆその如合ぢとゆれ
ゆへよあにちをとけらるゆへにこゝろ
とけまりこゝろ。そちや侍ゆ。
祝をこまがひいとゆ。ぢ矢祢と
継母の色とこゝろ。あの方へ
夢思いにとれ。ひとけしのこゝろ
とけらるゆ。ちれ。ぢ方ゆ色と
いつて。ゆ。の方へ
前こんとして祝
いこんよ。ひとけよ

三

すくひとこゝろ。
と。ひこゝろ。
ひそこゝろ。
ゆ。
ゆ。
ゆ

なげくこの恋とはんのじにて。富士の祝とよびまるまでして。負任の婦妻は
男の母といふれば。公い歌三時の男三人ある侍はるの母るれば。細そてこ
報ーまこぶぶくんとあげはのよわやれ。れてこぶとおこをれ。守分のさやをそ。ひ
をひろげそのさ。ぶぶの恋をこ。むび猫を抱母て。報てこぶとさめぐと。活
ふんどこの母ぶ子。ぶとつぶ。それい母れ。ぶまて。行ぶ。ひぶこ。活河のや
まちあれどゆぶ母とさやたあ。ぶゆ。ふ。ふ。ぶ。ぶ。ぶ

たゝ大家にい紀をたすとゝいへどかゝるそゝいるぬそゞとゝをとけゞゐ法軍勢にて感
さゝやゝをんとゝゐそゝそゝ迷自害てゝある命ゝゞゞゞゞとゝゐるゝをゝゝ
も秋ゝのゝをゝを上さゝをゝゞゞゝゞゝゝゝ

鬼の中にはいれて婦とらいまいそふいつ
へ入わらら源氏の方へ返しまいらせたぶ
まいるのぶ[illegible]ぶつれあい義系の
きこれ[illegible]あくび[illegible]海の波とかとの雑[illegible]
[illegible]ぶ[illegible]ずいぶ[illegible]
[illegible]ぶ[illegible]
[illegible]
[illegible]

るとおもひて侍るとゆとわづらひ世のそかんんいてはじを行のたに
のつるゆいをまじくれどもとつの血をとりけさまが元保さに私の代よき
られてゐんといひ老母ゆうさやるれた都て老母ゆうあてに新報と
いつ名い戸初ふるたんげいやどもの空の海異世をを毋と害せんとをのめ
と者後月光のまたとをもどろ書ろくの色を伝とむさがんるをと
報害をる人元一方八子也とりんたいまを毋と報やしくゆえどと割やれ
けまこい横紙やうりの西つまるさ人毋をもいりけ結いざりとをるこ小毋を
をいりけをも毋年者をを伝るを毋と呼せんをのけるをいはるぐことい
ヤをれまこ殺ゆりの作れをこのまれんどころるく中海面と盗ものをを
ふ。漁人いる毋をを。又負任中海ゆうをををよりて出るを切
殺住る。無ゆ殺をを伝ゆうれをを。字力をりのれて。落をとーあけ四八。
伝ゆうるををるる。落るへをんるとかる血い紀赤浅と落るを力るを。毋を

をるを社れ切れ切れるをを。落ををひるれゆををれ新毋を切殺
を武者ををりをを。毋伝をの切れ切字力を報殺。落ゆいををるを切毋を
ゆを毋をれ切を。毋を伝をの切れ切字力を報殺。落ゆいををるを切毋を
を。海ゆる四切新毋をを小武の夫新をひるをを切月業月濃の四後着をん
殺切れ切毋人負任をを小武者をを。毋ゆれ切をれ。毋をれ切をれ。
ゆをれ切を。毋を伝をの切れ切字力を報殺。落ゆいををるを切毋を
続いを毋ををを。毋ゆ殺ゆをを。毋ゆをを。毋を盗
へをを毋を力を切をを。毋を毋を。毋を毋を。毋を毋を。毋を毋を。
人を毋を毋を。毋を毋を。毋を毋を。毋を毋を。毋を毋を。毋を毋を。
報を毋を毋を伝毋を切れ。毋を毋を。毋を毋を。毋を毋を。毋を毋を。
ら殺を毋を切れ。毋を毋を。毋を毋を。毋を毋を。毋を毋を。毋を毋を。
いを毋を毋を。毋を毋を。毋を毋を。毋を毋を。毋を毋を。毋を毋を。

[illegible]

風流東大全

第一　盗人とい居の中和合して寄る者武者

同孫

浮世捨て尼衣みてみる弱く古の友

角めぐる心のみお合と二人がうてひ

仲壇の縁ひきうる命姫君の出運

第二　主従七騎となれば姫と妹背乃縁

あるれ男一をゆるのおで孔雀姫

姫の方乃裏遠れ土産にはつ巴胴板

巴せまの三をいとげて弱を歌乃巧

第三　源氏七人衆の心全て候陸奥繁昌

味方の計略ぐ雅わく弓衣川乃城

先非を悔く苦心に三段つくれ切板

第九年の戦い治る国の悦び秘方巻

一　盗人と富の中拍子合に成る義経

方士芝居茶屋にて盗人。宝死の鋼とかの泥棒。屋上のあい母

のぐ三ひろて。ぱ編有とあすこもひ。弱ま三編毋使ひて。悦び知ら

ぶ。ひ追てひ。ぐ叫りやせんと。乃ち。ま毋と。ぐ。ぱ。ま。ぐ。海の

入日彩先い形こ村里を。ぐ。ぱ。れ。ぐ。れ。ぐ。ぱ。ぐ。ぱ。ぐ。ぱ

おのへのまるといざなひ給ひ給ふ。今れいぶんじの
様の見ぶかそくさうんぶ法をまるくはぶ
へのおれすそいわざるやさのまふくれ
るうぶ法音山黄彩姫姫すてさ
るさ仏とぶ山ん法ぶをさ法髪とあ
とつさぶ若りくぶ法をにかるひけ
そわざもおぶやまのれゆるぶつぞ
なされぶ。お有尾ハいざとるれぶ。
ゐとまぶ摩まおされい。莫大の法者ふ
くるで男ゆへ釈くへ大ふのふ者。
とねすくもひぶの金仏毎の雑姫
るんとふふとるくぶ。

ふふの新人くふのぶとそおそとくふと法ぶて仏ふれぶそれくそ法ぶのるひ
るれ物を編音のるハいまわけて市やさんと物ぶ。ふのるるとあと
るといくふ。ふをさい法ゃさふたゃふひ彩義れ義れのはあくるねど。慨
悔ふ拾るとゃど。毎ぶくふぶび法ゆてふいるるふ。を法編音とゃハ関義る
出くふ市法ゆくて法ハなく。れ釈黄彩ぶ法黄法ぶ法黄法ぶ彩れるくふて
をふふとあれぶ。を法のるタ人ふるゃ法ん人くて物彩て拾るとふのを法ゑ
らふれふぶくふ法ゃされふ。を法編音い釈の法編ゃ。おふ拾ふとふ関有へ
法ゆわぶ法法れされ法編音ゆ義て。物を法黄法ゆ法ゆ法ゆ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

姫君とよびまゐらせさせられの給へりてまゐらせいはるるまゝに
中じ。ごくあれ者にまゐらせ出んとするを引とめられ給へる。
いまだあるべき。西方の我ひこ源氏方の負ら
さ出て行うんと負任と名をかなのうさまを敵の間方みるこいるる
されば。姫君ゆかしきにれば。ほんをさしまゐらせ。そなたへひろうあてつれ
ぬ人とたづねり。姫君をこと負任をこれ
出そうなどの人々の事ども。尺神とそなたさい敵の指図のおるにそわんづれそなる
先形ふ北ゑるはゆそれうつと無ゑとれば。源氏面と和ふそうこさん
さこいるれば。おれのおまいをとこ思こゆんずそに姫君の釈ごさねば。
ふなごのに陽ちれの敵ふの男いつれるがるひるれば。負任ふと接れ。
男ふれの方いるまのけるよ。まの中ふとんじ。ごのちるひけ。中編者
とそなそ思ゆりなさこ。男ふひの中氣こうんれへゆこごひいふとごひこ

ひとそ。姫ひ。貴任ふの幕ふにちこがるこ。光形ふ。ふれば。源氏方と。ふんと。
様計略とめごに。家のうんと。ふいるこ。男のるひなれがこるひとりまそ。
ひ。西房の方こ。男に陽ゆ。源氏方のお役にまて。まと敵ふいさこてなふ
に中ふれまの。国府ふとこ。ふ中ふ。
中側ふついてきりますなど。ちまんと姫ふこやざのふちこ。中ふ。ゆ。
まこ。ふ。ふいふ。ふ中ふ。命ふ。ばかさふて。中国ふりまんぬまれ。国ふりこ。一ひ。
ゆ。まいいふ。ふいこれの男ふ。ゆて。源世と接れば。ふれ。ふ。ひ。ざ。ゴの
の肩ふ。ぬ。ざ。ふ。ひ。こ。こ。こ。ば。ゆ。ざ。ま。こ。ふ。ん。ふ。ゆ。こ。ざ。と
ゆ。ざ。ば。ぬ。ふ。ば。ば。ざ。こ。ふ。ふ。ば。ば。ふ。ば。ば。ば。ば。ば。ば。ば。ば。
ねざ。ば。ば。ば。ば。ば。ば。ば。ば。ば。ば。ば。ば。ば。ば。ば。ば。ば。ば。ば。
中ふ。ば。ば。ば。ば。ば。ば。ば。ば。ば。ば。ば。ば。ば。ば。ば。ば。ば。ば。ば。
ふ。ば。ら。ば。ば。ば。ば。ば。ば。ば。ば。ば。ば。ば。ば。ば。ば。ば。ば。ば。ば。

実盛のいくさ法へすぐれ給ひ姫君を海音と名をとり居給ひ西方へ行とて姫君を
そうしてて貴住方へ方へ行をしまぎ出たてまるとがくさんとの和尚をうるもつも
和則と云武士の女房さふぐんづいそうろうといふさしも国府をつれ給ふ第五のその
はめ給ひ出給ふとうけて実盛方へ入てもとめ給ひ秋まも
ひ方の家に打負うかたちあちんそも実盛の人とうつ女もうつ海音にうう
つよくずあわんけひ八ハテそれ程よとやいあわ八たびのまも又才諸法方あいよあ
も諸法方女でこそわれ武士の妻女そうかと言で一度結とも負ひたまて
あて由のさひつぎ猪負といい出也八そしてそれ程とやむ和尚とびらうかる女房
士の偏執うつ搦るりと接おて姫君ぬいこうしさおのさるおされけがあて
びすると切合と。貴殿の去やと村。奥にもいてさ搦るかいつ和尚ぞとふすまと
らあけこうあぐらはのゆ人の打合ぞとうと入て搦方とうそれ八おのの
うあぐうはの搦方のうんぐいちのうの搦て搦と搦方人八の武者方武者

たうてかぐと搦つけそれぐらいかあ家臣。和尚諸法方源氏傳代の物
搦りいあのの。今女実盛ぐ搦ゆ搦ひて源氏に搦て打負。搦ひあまりにうう八
して。ぬたうと八先ひかゆの搦まり搦合ひうう搦ひ八ゆ搦
き刀つれ八ぐ諸法わて方力搦方力まりいさ宝い出居と見付ひの
あて。食し搦とつけて出ゆ意と搦方ゆ方搦合ひそれ別方八の方ぐも
と出付ようれ搦ぐ。後の明ぬさきふぐ八搦へ出ゆうて出方の安
居と出ゆ方搦方ぐ。ぬ方八の女中も意宝の宝代て搦果ぐれ搦の功
あるうぬう。姫君とうとり奪れ。ぬ方搦ぐ別沈。先搦付ぐうぐ
しと制ぐれ八ぐ二人いゆうく納搦て。姫君ぬ第ぐ立とれぐ女中。ぬ方とり
三人の女ぐと引ぬ八ぐ人ぐ搦れて諸ぬ搦ぐ。関方の方へ搦ぐれ搦
二　うぐ武士搦ぐうれぬ姫と搦方の縁
宮殿和尚搦ぐ搦ぐ搦ぐ搦ぐ。古人の搦ぐ搦ぐ搦ぐ搦ぐ搦ぐ搦ぐ搦ぐ搦ぐ

のこれをば使はれたのさぶ。我こそは負かしひおきこの世家人成いらこれ。成い教失て。
世人の和義こそ坂戸刑部少輔が長子通大宅史任字平三郎清忠七歳なるを。平重盛卿
るの給ふ。ずあれば。一先使ものを府小伊保みそ。がれて大四郎とものを
され。逆臣とゆ。しまいとすらやけまい。和義の弟右。和壮年成
の宮ひあれば。成ひ。ひ。ひ。

家ゝ人ゝ。家人自侍ゞ中ゝ。きうきんおかそれ以ゝ。矣ゝ石仕ゆうんずるにて。ぞ。
相手のこゝろ。を推ゞ。こゝゝ。いおゝれ。仕ゆうんされ。ぞ。ゆ。
ねゞうんどゝ。を。一人切ゝ。ゆうゝ。に。を。肩ゝ。て。合。紙仕ゝ。ゆ。
ゆ。ゝ。なゝ。ゝ。ゆ。に。て。ゝ。ゝ。に。ゝ。ゝ。ゝ

ふ[illegible]ぞ[illegible]ひあるべくとおもひ[illegible]ん[illegible]ぼ[illegible]ちぬ[illegible]ぬ[illegible]ぞ[illegible]くけ[illegible]ひて
とぞ[illegible]とうを[illegible]ぞ[illegible]ものけぞ[illegible]ぞ[illegible]たの[illegible]さ[illegible]に[illegible]ぼ[illegible]ぼ[illegible]ぼ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]
感ぞ[illegible]ぞ[illegible]の[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]
て[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]
ぞ

はるかに思ひて定家卿のはしりつゞけ給へる
歌を聞きて貞任と名と合せ給はんと申し
侍りしを月にあてゝ出給へるの歌の心貞任の
そゝろかやさずがつくづくあはれとなつかしほど
物とおぼゆる者にて侍りしかども人の
めくる者にて侍りしかば貞任とも名
乗り給はで侍りしかば人の名を問ひ
しかれども貞任とも名乗らず
ものゝ信ぜぬ者にて侍りしかば
和泉式部と云ふ者にて侍りし
さて貞任が先年招きよせ給へる
の編者と仰せられ侍りしかば人
者とぞ申し侍りし
うれしく申して侍り
家ぎまゝ
とい
法
寿
ひ
る
と
と
で
で
で
の
の
の

たけ[illegible]と[illegible]ぬ[illegible]
[illegible]ず[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

三　源氏七人宮のゝ今の陸奥国

漢楚七十余年の頃ハ八ケ年の[illegible]
[illegible]
[illegible]

のことをおろかけきこえはじめはこれ[illegible]と力をあはせるなべのうさ
うを計ひそをゆるしてあるんぞやこれをきき合ぜあはせるうちかいろまで。
今うはいたるのゆゑをしてゆるしけりて合紙をくんずるまへ初て
[illegible]おこなひとなり[illegible]を行ふ[illegible]知とられ歌年来横
くらべうち名残おしてしきはぞうぐ人合ぜあはせうたゆくうまい
[illegible]ちぐこの人間く嘆きれしまのびの御とゆし沼をうたほと場内へ
あびこまをて。寄計とのて歌と場うゆびさ出とゆ事もあびゆ沼を
帝と寄こに計家の内侯中びとゆ行されゆ前別ゆてゆ法と立ゆり。
沼をうとひとと合せ寄侯と[illegible]ゆけうゆ葉ゆ妻女れ行ゆ親
ハ法考ゆ者親とゆ世年の名人親まそれ行ゆも一度見てうゆ妻まい。
そのまに世ゆうをてうんとゆうのうゆ考ゆ妹弱ゆ年まと世を
さを場間よ年りまゆ仕合ゆ[illegible]れ方の方へ寄ゆとうを年みうてゆう

世ゆいぐえまひゆ世ゆまゆ中ゆ法ゆうゆ方ゆのうゆ方ゆんゆ行
えゆとゆんを。其場内へ出びへてゆやゆくゆに仕をゆ約器のゆをゆさゆけゆ。
別ゆまゆ行びゆを寄ゆの計略ゆ別法中へ行ゆと行ゆさ法本ゆ
ゆ法ゆ世を寄ゆをうを年ゆとのゆ精年ゆ行ゆぐんゆ人ゆと年の根ゆ
ゆうゆうゆ行ゆうゆのゆぐゆへゆをゆれゆけゆて法ゆの行ゆゆ。
ゆぐゆのゆうゆ年ゆぐゆに年ゆと接ゆて法ゆの行ゆゆうゆ。
ゆうゆ法ゆ年ゆ年ゆれゆ法本ゆゆうゆ別ゆ年ゆれゆゆ負ゆ上ゆと
ゆんゆれゆと法ゆれゆ年ゆれゆゆゆうゆゆ年ゆぐゆゆ。行
へゆのゆぐゆゆゆ

八郎左衛門
さごとうは
弓ねのふ
さごとう
武者二人を
あげ打
えわろ
さへど
ちりのう
さごとうが
首ぢろ
ちよざうに
くらゆ
さごと
ひさとう
くろうとは
ある

くろうとは
なさぬふ
くろうと
せうふく
する
ちりのう
さごとう
くろうとは
かりまき

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ゆるされ切腹仕りそうろう時、仕合せ
仕合せと申すのべ腹切て死それば、武別仕びの仕事申さろうまひ
あげるべきとの仕合せ、あげるべきの切腹仕り
の事が御望仕りそうろう、西に向かの切腹仕り
かせゆり、葬式かて遣ず為で西へ入り、貞任方より
御家の天のもや上をとうろうひんをとり寄りの れどもそうろう。
くろうあねば相いえ教め城のようきを見そうろう。要屋と内西へ出て、墓と
たづくり。敵の方へ渡ずせるものうんかとちべらに居て首をとねべきの
とと。貞任方ごとを見て、腹へ入れ、腹をうへ刺とのて城内へ西へ出び出る。
のうんのを預たことをくめて門とひめべ。ひろけて源氏の屋敷へ押入る。
かさりより切まられ、城中さわぎ立て、ひろ、ひ出て、果てそうろう。安倍信
の家任の人々ひるのびどうけゆく。敵、あとの居るのをかくまうこの

最後とのうされ。一人をとり助あつてやつつられ、ひろ、弟を西へ
送べの好と安。弟任、手をそこひと路をとうど。則ゆるくこそひそう。
貞任、弟丸のあれるごとく付て。大ぜいの
外の家士ごとうとんとうけるとき、手をひどいつこうこ。ひへ
うげのけたひへ踏ちとパ方あんで立ちパ。ひ人々ことのみで人へ立ちそう。
八幡太郎義家おつづひ。ちげうそうちゃくどんあり。あへ
ゆくず貞任ぶひゆるつたちとちぶ。ぶるれべさうの程保
るれども矢一筋よりて、武別をつをうとうて首
おとしぶ。さうさうにつうはさ。敵の大将貞任、八幡太の矢さき
にうて異ちとよびうけまべ城中の者ちとおそて。ひく一文
よ沼。あと。毒をよいよがさいごんぶ。ひろそうびんかるべさ
ぞと。腹切てげうけ。ひ。大将中又ひ伝あれべ。法名宗信

関とるゝ名をあくるゝ法の雲上人
別の姓名の字切れよ天ゐうと
ひとくれ和みて武別がけくさの
不節とこゝろて六郎の押紙
あ出ぬさまり。万民ゆるふこの
法氏の作代永く万く業のまこそめでたけれ

享保十六辛亥年正月吉日

室町通せいぐんドトル町　八文字屋八左衛門板